

第8回 大町市少子化社会における義務教育のあり方検討委員会 会議録

開催日時 令和2年1月22日(水) 午後6時00分
開催場所 大町市役所 東大会議室
出席委員 山崎晃 縣邦彦 百瀬泰慶 柳澤英幸 菅沢一彦 海川明文
勝野英男 北澤豊繁 北沢伊紘男 小林平八 飯沢壮一
荒井英治郎 高橋克好 重田あまな 吉澤義雄 中村勝彦 (16名)
説明者等 荒井教育長 竹内教育次長 三原学校教育課長
一本木庶務係長 久保田学校教育課長補佐
中村学校教育指導主事 塩原学校教育指導主事

1 開会

竹内教育次長 (開会あいさつ)

2 教育長あいさつ

荒井教育長

3 協議

柳澤委員長 協議事項に入る。(1)について、事務局に説明いただきたい。

三原学校教育課長 (説明)

柳澤委員長 まず、1、2ページ、「はじめに」、「検討に当たっての視点」に対して、表現などにご意見をいただきたい。

A委員 「はじめに」の3段落目、検討委員会の開催は今日で8回目だが、「9回」となっているので確認いただきたい。

また、平成〇年〇月と記載されている部分は、報告書の4ページ以降は平成〇(年)の記載の後ろに括弧書きで西暦の年号が記されているので、整合性をとれるようにして方がいい。

竹内教育次長 検討委員会の回数については8回。年の表記は統一するよう改めたい。

柳澤委員長 他にあるか。

(発言者なし)

では、3ページからの「検討の経緯等」について、ご意見をいただきたい。

(発言者なし)

では、4ページからの「検討事項等の現況」について、ご意見をいただきたい。

最初に「(1)児童・生徒数の推移と将来推計」についてどうか。

A委員 4ページの「平成19(2006)年」は(2007)年。「平成28(2017)年」は(2016)年になる。

竹内教育次長 誤りを修正させていただきたい。

柳澤委員長 他はいいか。

(発言者なし)

では、「(2) 通学区と小規模特認校制度の現況」について、意見があればお願いしたい。

(発言者なし)

では、「(3) 学校施設」について、意見があればお願いしたい。

(発言者なし)

次に、6 ページ、「教育環境及び教育行政上課題」に入る。「(1) 小学校における課題」について、ご意見をお願いしたい。

B 委員 4 の (1) ①で、「理科については 14 学級以上でないとは配置されない」となっている。7 ページの提言 (1) には、「小・中学校ともに 12 学級以上 18 学級以下」が文科省の基本姿勢ということで、12 学級で OK であるなら 14 学級以上でないとは専科教員が配置されないとなると、整合性が問われる気がする。

荒井教育長 14 学級には支援学級も入る。学校規模の 12 学級以上 18 学級以下には、通常学級だけ。要するに、国で言う 40 人規模学級が 12 以上という基準。学級数の中身が違う。

竹内教育次長 今の学級数の表現について、どのように扱ったらよろしいか。

荒井教育長 提言に入れるのは難しいので、課題の部分で「理科については 14 学級以上」に「(支援学級を含む)」を入れればよいと思う。

柳澤委員長 他はいいか。

(発言者なし)

では、「(2) 中学校における課題」について、ご意見はあるか。

(発言者なし)

続いて「(3) 小中学校及び中学校に共通の課題」について、ご意見をいただきたい。

C 委員 戻ってしまうが、「(3) 中学校における課題」の③に説明を入れてもらいたい。申請すれば、非免許でもいいということなので、それを書いておいた方が分かりやすい。

荒井教育長 課題の部分なので、非免許でやることはあまり好ましいことではないので、そういうケースが増えてきているという実情を書く程度でいいと思う。

特に小規模校は、そうなっている。

D 委員 (2) と (3) が関連して、中学校が一つになれば (2) の課題が全部解消されるかといえば、そうではない。すべての部活が全部できるかといえば、これとは別問題。今は、外部の講師を使いながら池田や松川の中学とチームを作って、大会に出ていく体制がこれから生じてくる。そうすると、今後、部活についても広域でのチーム編成なども生じざるを得ない、ということを文の中に明記したほうが

いい。そういうワンクッション置いた内容を市民に知らせることも必要じゃないか。

竹内教育次長　　今まで議論いただいたなかで、部活の選択の種目も限られてしまう、という現状の意見が出されていたので、このような文になっている。

荒井教育長　　全部は解決できないが、小規模化すればどうしても種目が少なくなってしまうことは確かであり、課題である。ここに課題ではなく、課題の解決の話を書いてあるとすれば、おっしゃるとおりだが、課題という意味では間違いない。

D 委員　　それは分かる。

荒井教育長　　課題の中には書きようがない気がする。

D 委員　　ただ、これを市民に公表するとき、中学校が一つにまとめれば全部クリアできるのか、とPTAからの期待に応えられるとは限らない。そこをどうするか。

荒井教育長　　そうだとすると、むしろ提言の中に、「提言で出された課題のすべてが解決するわけではないけれど、この提言によって、より改善される」という意味のことを最後にちょっといれるかどうか。それは、提言の部分の話になる。

D 委員　　そういう心配があることだけは伝えたい。

柳澤委員長　　次に、「(4) 教育行政上の課題」について、ご意見はあるか。
(発言者なし)

では、「提言」に入る。「(1) 通学区の見直しと旧市内における小中学校の再編」について、ご意見はあるか。

荒井教育長　　もし、海川委員のご意見を踏まえるとすれば、(1) から (4) に入れるのではなく、冒頭の文の後に、「なお、これらの提言によってすべてが解決するわけではないが、今後も社会状況や少子化の進行に応じて、様々な面から検討を重ねていくことが重要と考えられます。」くらいの文を入れるかどうかだと思う。

D 委員　　入れてもらえれば、今後の議論につながる。

柳澤委員長　　他の委員の皆さんはいかがか。
(発言者なし)

市民にとっては、それを入れておけば分かりやすいと思う。入れる方向で検討したい。

C 委員　　冒頭の文の3行目に「また市民アンケートと2度にわたる保護者アンケートの結果を実施しました。」は、「保護者アンケートを実施しました。」でいい。「の結果」はいらない。

竹内教育次長　　「の結果」は削除したい。

E 委員　　(1) の下から4行目、「これにより、専科教員の確保、授業内容の充実」とある。裏腹だが、ここで言いたいのは、学級数を多くすることによって先生方も増えて、多様な指導方法が、つまり習熟度ができたり、少人数ができたり、課題別ができたり、結果的に授業の内容が充実するが、むしろ指導方法が大事かと思う。多

様な指導方法がとれる。「多様な指導方法による授業の充実」などにしたらいかがか。

荒井教育長 意味は分かる。「多様」が後ろの文にも出ているので、表現は任せていただきたい。

F 委員 小・中学校とも 12 学級以上 18 学級以下というのは、完全に守らなければいけないことか。

荒井教育長 これを目標とか目安にしてということ。

F 委員 オーバーしても構わないか。

荒井委員長 もちろん。

F 委員 この前からこだわっていることだが、小学校を 1 校にと考えている。資料の 123 ページに、「小学校を 1 校にまとめた場合、全校で 900 名規模」と書いてある。前に配られた資料では、令和 7 年度の児童数が全部で 941 人となっていて、八坂と美麻を除くと 850 人くらいになる。そうするとクラス数では、35 人学級でいくと 4 クラスでいける形になる。

もう一つ、児童数とインフラの関係で、小学校の 4 校がかなり老朽化している中でこのまま使うのかという話になれば、新しく建てるかどうかまで考えたときに、中学校 2 校はかなり新しいので、どちらかの空いた中学校を小学校にすれば、お金もそんなに掛からない。通学の問題も、バスの運行方法なども小・中 1 校ずつになれば、費用も浮くので、考え方でいくらでもできると思う。

小学校 2 校、中学校 1 校として意見をまとめているわけだが、小学校 1 校という意見もあるという文言を入れていただきたい。

柳澤委員長 他の委員の皆さんはどう考えるか。

(発言者なし)

荒井教育長 入れるかどうかははっきりするため、決を採っていただいた方がいい。

柳澤委員長 それでは、決を採りたい。

F 委員の意見を提言に加えた方がいいと思う方は、挙手してください。

(挙手少数)

賛成少数のため、入れないこととする。

A 委員 そういう意見があったことに対し、何も記載されないことがどうか。多様な意見があったことをどこかに記載しておかなければいけない気がする。F 委員は前回も同様の趣旨の発言をされているので、知恵を絞ってどこかにそのような意見があったことを記すのがフェアだと私は感じた。

荒井教育長 一番の問題は、これで公表した時に、どっちで進むのかという話になると、そこでまたいろいろな問題が出てくる。ここでの方向としては、ある程度明確にさせていただいたほうがいいと思う。ここに書かないで、経過にそういう意見があったということを書くのは構わないと思う。提言に入れていただくのは避けてい

ただきたい。それは提言にはならないと思う。

柳澤委員長 他に（１）についてはいいか。

（発言者なし）

では、「（２）幼児教育から義務教育まで一貫した教育の推進」について、ご意見はないか。

E 委員 前回議論になった「総合的なビジョンを策定する」と入れていただいたが、「ビジョン」という言葉が非常に曖昧で、例えばここは、法律で定められている「教育大綱」という形で入れることはできないか。大町市には、社会教委育計画があるが、ここには、義務教育に関連する部分がほとんどない状況である。これでは、ここで願っている大町市としての方針にならないと思うので、新たに教育振興計画を作る、あるいは教育大綱でもよいが、とにかく義務教育の大事な方向を示すところなので、「ビジョン」は、「教育大綱」又は「教育振興計画」と書けないか。

荒井教育長 教育大綱は、あくまで理念か大枠になっていて、大町市では総合計画で代替えしている。振興計画になると、かなり具体的な中身の入った教育計画になる。そこを「総合的なビジョン」と表現しているが、ビジョンでなくて「総合的な教育計画」と言われれば、それでも構わない。

E 委員 多くが教育大綱を作って、その下に振興計画を作っている。そういう形で書いていただいた方がいい。

荒井教育長 「ビジョン」じゃなく「総合的な計画」とした方がいいか。

E 委員 それは、どうなのか。法律上のことはよく分からない。法律では教育大綱は義務付けられている。振興計画は努力義務。それに替えることはできるというが、今の大町市の計画では、今回議論してきたことは載っていない。

荒井教育長 だったら、「教育に対する新たな教育大綱を策定するなど」とするか。「新たな」と入れる。今でも総合計画を教育大綱とみなしている。入れるのなら「新たな教育大綱」と書くしかない。

E 委員 そうすれば具体的なところまで踏み込めると思う。

荒井教育長 ただ、「新たな教育大綱」というのが、具体的な細かい計画にはならない。理念が中心になる。

E 委員 理念がなければできっこない。教育振興計画にしても、新たなところにも、そこが入ってくると思う。

荒井教育長 「新たな教育大綱」とすればいいか。それも委員の皆さんに諮っていたきたい。

柳澤委員長 他の委員の皆さんはどうか。

荒井教育長 提言の部分なので、きちんと決めていただきたい。

E 委員 現在は大綱を作っているか。

荒井教育長 作ってない。今は、市の総合計画を大綱とみなしている。作るなら、こ

れからになる。それを来年、検討しようとしている。だから、入れることはできる。
具体的に提言に入れたほうがいいか、皆さんで決めていただきたい。

E 委員　ここに「ビジョン」と入れていただいたのは、今回の委員会が、人数で学校を合わせるだけでなく、大町市としての教育方針に基づいて新たに学校づくりをしていくということを打ち出したいからである。だから「義務教育の検討」の名前を使って委員会がスタートしたと思う。

A 委員　テクニカルな話になるが、「通学区の再編に合わせ」と前にあるので、それに続くとなると通学区の再編がいつという議論はあるが、その前段階のスケジュールとセットで検討いただいた方がいいと思う。

荒井教育長　この提言の前提で、教育大綱を新たに策定することを、新年度に検討するつもりでいる。だから「通学区の再編に合わせ」という言葉があっても構わない。

A 委員　「通学区の再編に合わせ教育振興基本計画の策定」となると、話が変わる。3択になる。原案どおりか、「新たな教育大綱」ととどめるのか、スケジュールも含めた「教育振興基本計画」まで記載するのか。

荒井教育長　委員長が整理するのは大変だと思うので、私が説明し、ここだけ委員長に代わって採決させていただく。

まず、定義を申し上げると、現在、法では、教育大綱という理念や方針を定めるものの策定が教育委員会に義務付けられている。ただし、教育振興計画という理念を含めて教育を振興するための計画を作っているところは、それをもって大綱に替えることができるという規定がある。大綱を作らず振興計画で計画としている市町村もある。大町市は、どちらかというと、そちらの立場に立って市の総合計画を教育計画とみなして、大綱を改めて作らずにいる。

今、E委員は二つの意見があって、理念や方向だけを定めた大綱を新たに作った方がいいという考えと、そういうことを踏まえてさらに具体的な教育の計画まで含めた教育振興計画を作った方がいいという考え。そして、そういう部分を曖昧にしたまま総合的なビジョンを策定するという一般論でこのままにしておくか、三つの考えが出ている。

そこで皆さんの意見をまとめなければならないのは、三つのどの表現にするのか。

まず、1点目の「新たな教育大綱を策定する」という表現が適当だと考える委員は挙手いただきたい。

(挙手なし)

次に、「総合的な教育振興計画を策定する」という表現が適当だと考える委員は挙手いただきたい。

(挙手5人)

挙手5人です。

では、ここに書いてある、一般的な「総合的なビジョンを策定する」という表現

が適当だと考える委員は挙手いただきたい。

(挙手 8 人)

挙手 8 人です。そうすると、ここではこのままにさせていただきたい。この議論も、先ほどの F 委員のご意見と同様に、提言ではなく経過の部分で、注記か何かでこの部分についてそういう意見があったことを記載させていただく。そういうことでよろしいか。

(「はい。」との発言あり)

柳澤教育長 (2) については、そのような結果でお願いします。「(3) 学校施設の整備等教育環境の充実」について、意見はあるか。

A 委員 (2) に戻るが、3 行目に「下記の視点に立って」とあるが、①から③を示すとすると、また下に「以下の観点を重視して」と同じ表現が出てくるので「下記の視点に立って」は、なくてもいいのではないか。

また、その後に続く文書の「幼稚園児や保育園児から小・中学校における義務教育まで」は、幼稚園児や保育園児を残すとすれば、「幼稚園児や保育園児に対する幼児教育から小・中学校における義務教育まで」というような形で、幼児教育と義務教育を並べる形で表記されてはどうか。

竹内教育次長 「下記の視点に立って」の削除等、整理したいが、いかがか。

柳澤教育長 削除等することよろしいか。

(「はい。」との発言あり)

では、そのようにお願いします。

他にあるか。

(発言者なし)

なければ、「(4) 地域とともにある学校づくりの推進」について、意見はあるか。

D 委員 最後に「齟齬」という用語があるが、あまり使ってほしくない。市民に投げかける内容になるので、一般市民として意味が分からない。市民にわかる言葉で表現してほしい。

荒井教育長 「整合性が図れるように」とか。

D 委員 それなら分かる。「整合性が持てるような最大限の配慮」というような言葉。

荒井教育長 そういう意味になるよう、直させていただく。

柳澤委員長 他の委員に皆さんもそれでよろしいか。

(反対者なし)

直すことにする。

全体でご意見はあるか。

G 委員 5 ページの出生数の推移で、今後も 150 人未満で推移する推計ということだが、150 人の根拠は大町市として何か定めてあるのか。他の審議会等でも出生数の表記があるが確認したい。

竹内教育次長 18 ページにグラフがある。これから見て 150 人としている。

G 委員 市では出生数を 150 人とみて、今後の計画を立てていくというような統一の考えはあるのか。

荒井教育長 実はいくつかあって、市の計画によっては若干違う。企画財政課で出しているものの中ではこの数字ではない。市として一本化しているのは、企画で出している人口推計が本来の数字。それをそのままここで使うには、推計した時点が今ではないことから、現時点で教育委員会が皆さんにお示しした推計と考えていただきたい。

令和元年の数字がまだまとまっていないが、ほぼ同じ数字になっている。3 年間このような数字できているので、間違いなくこの数字で推移する。したがって、市全体のオフィシャルな数字でなく、教育行政としてここで使っている数字と見ていただきたい。

柳澤委員長 他にあるか。

(発言者なし)

なければ本日出された意見を整理し、必要な箇所は修正を加え、この委員会の報告書とすることに異議はないか。

(「異議なし。」との発言あり)

重要な報告書となるので、確認する。本日出された意見に基づく変更箇所の修正は、委員長に一任いただき、これを委員会の報告書としてよろしいか、挙手いただきたい。

(挙手全員)

全会一致で決定した。

荒井教育長 本日の意見を踏まえ事務局で修正し、柳澤委員長とできれば勝野副委員長と 2 人から報告書を私がいただき、31 日に、市長が主宰する総合教育会議において、私と教育委員と市長とで、その扱いについて擦り合わせる。そこで方針を決めたい。

D 委員 確認したい。今、この報告書が全会一致で承認された。この後、委員長から教育長に報告書を渡す。それが報道される。広報おおまちには、検討委員会から提言を受けたあと、基本方針を策定し、パブリックコメントの募集などを行ったうえで、方針を決定する予定とある。ところが、この素案の検討している時の報道には、市教育委員会は、本年度中に提出される同検討員会報告書を基にパブリックコメント、意見募集や議会などの意見を聞き、来年度中にも方針を決定する、とある。だいたいこの方向で進めるということで理解してよいか。

荒井教育長 これで事務局で直した報告書は、柳澤委員長から私がいただき、その扱いについて、31 日に市長が主催する総合教育会議で、私と教育委員の皆さんと市長とですり合わせをする。それに基づいて市として今後、具体的な取り組みを進め

ていくことを総合教育会議で承認いただき、次に3月議会の全員協議会にこれを出す。そして来年度中にパブリックコメントなど市民の皆さんにできるだけ早くこれを知らせて、意見をお聞きしながらこれを具体化するプロセスやスケジュール等を決めていく。基本的には中学校1校、小学校2校の方向へ進むことになる。今の時点ではその程度にとどめていただきたい。

D委員　もう一つ心配がある。今日もH委員がおいでになっているが、一中は来年度60周年記念行事を行う。その中で、今後の一中を…と言えるか。来年の60周年が最後になりはしないかという心配を今からしている。コミュニティ・スクールの一委員として言わせてもらいたい。

荒井教育長　西小も150周年を迎えようとしている。岳陽高校は、大町高校が150周年、北高が100年を迎えた直後に誕生した。記念は記念として、将来のこととは別に理解していただきたい。

D委員　1校、2校に再編となると、市民の間では良くも悪くも「どこが」ということがすぐ出てくる。市民の中で抗争が起きないように、ソフトランディングできるような恰好を考えていただきたい。

柳澤委員長　その他では何かあるか。
(発言者なし)

今日はいろいろありがとうございました。貴重なご意見を踏まえて答申にもっていきたいと思う。今回で8回検討委員会を開催し、2年間という長期間にわたったが、皆さんのご協力のおかげでここまで来ることができた。ありがとうございました。

荒井教育長　私からも一言お礼のご挨拶をさせていただく。2年間にわたり貴重なご意見をいただきありがとうございました。この報告が、大町の子ども達の将来につながるように努力したい。重ねて委員の皆さんのご尽力に感謝申し上げます。

4 閉会

勝野副委員長　(閉会のことば)

午後7時15分閉会